

令和5年度 学校評価総括表

学校経営上の重点項目

- No. 1 確かな学力の育成と指導力の向上
- No. 2 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底
- No. 3 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進
- No. 4 個に応じた支援を行う特別支援教育の推進
- No. 5 心身ともに健康な児童を育てる特別活動の推進
- No. 6 開かれた学校づくりの推進

徳島市方上小学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>確かな学力の育成と指導力の向上</p>	<p>主体的・対話的で深い学びでの実現に向けた授業改善</p> <p>① 語彙力をつけ、基礎・基本的な知識・技能の定着と伸長を図り、継続的に読書をする。</p> <p>② タブレット端末を活用し考えをまとめたり、整理したりして、自分の考えを表現することができる。</p> <p>③ 自分の学習状況を振り返りながら、学習に主体的に取り組むことができる。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 朝の活動や授業の振り返りにタブレットを活用し、自主的に課題に取り組めるようにする。</p> <p>①-2 既習の知識や技能を生かすことができるように、教材を工夫して授業展開を行うとともに、読書習慣を身に付けさせる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①-1 タブレットを活用した学習活動や家庭学習を行うことができ、学力をつけてきているが、個人差が大きい。</p> <p>①-2 調べ学習やまとめ学習だけでなく、自分の考えをまとめる等にタブレットを活用できた。読書環境の改善に取り組んでいるが、読書習慣の定着には至っていない。</p>	<p>○タブレットを活用した授業だけでなく、グループで話し合う等の授業が行われていた。</p>	<p>基礎的な力を身につけるために学年をこえ、つまずきを補う。読解力に課題があるため、新聞を活用した学習を取り入れる。タブレット端末の操作技能に個人差がある。五能習得のために、支援の工夫を引き続き行っていく。自分の考えを整理したり、友だちの意見を聞いたりすることが難しい児童がいるので、話し方ナビ、発表ナビの見直しを検討して、活用し、発信力を育成する。自分の考えをまとめるだけでなく、人の考えを聞いて、考えを自分なりの言葉でまとめる活動を多く取り入れる。集中して読書ができる児童が増えてきているが、学校全体で学年ごとの読書量の目標を設定し、読書意欲を高める。また、学級文庫や図書室の本を整備して充実させるなどし、読書の幅を広げさせたい。</p>	
		<p>②-1 発表の前に自分の意見をタブレット等にまとめさせて自分の考えに自信をもてるようにする。</p> <p>②-2 ペアやグループで意見交流をしてから発表するようにする。</p>	<p>②-1 タブレット等を用いて自分の考えをまとめることができていた。</p> <p>②-2 タブレット等に言葉にして残す手立てを取り入れたことにより話し合いが活発にできるようになってきた。</p>			<p>(総合評価)</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>
		<p>③-1 グループ学習を積極的に取り入れ、自分の考えを明確にしたり発表したりする機会を多くとる。</p> <p>③-2 ワークシートやノート、タブレット等を活用し思考の過程が残るようにする。</p>	<p>③-1 タブレット端末の使用頻度を増やし、グループ学習を積極的に行うことで意見交換が盛んになり、学習意欲が高まった。</p> <p>③-2 視覚的にわかりやすくまとめるなど主体的な活動ができるようになってきた。</p>			<p>(所見)</p> <p>学習に真剣に取り組む児童が多く、落ち着いた環境で、学習を進めることができているが、主体的な学習や家庭学習に十分に結びついていない現状がある。タブレット端末の活用が表現力の向上に効果を上げている。移動図書館の利用や読み聞かせボランティアの協力により読書への関心を高めたり環境改善に取り組めたりした。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 ICTサポーターによる授業支援を活用し、タブレット活用を積極的に行うとともに、タブレットでのドリル学習を繰り返す。</p> <p>①-2 学年ごとに具体的な読書に関する目標を設定する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 目的に応じたタブレット活用の工夫について、ICTサポーターに支援を受けながら授業を行った。ドリル学習を進めた結果、知識・技能の定着につながった。</p> <p>①-2 目標を明確に示せなかったが、移動図書館の利用など環境改善には取り組めた。</p>			
	<p>②-1.2 表現の場を全ての教育活動で数多く設定し、全児童が自信をもって表現できるようにしていく。</p>	<p>②-1.2 表現の場を増やしたことで自分の意見をまとめ、自信をもって発表や意見交流ができる児童が増えてきている。</p>				
	<p>③-1.2 自分で計画を立て、課題に主体的に取り組む学習を積極的に行う。</p>	<p>③-1.2 個々の課題に対し主体的に取り組む機会を設けたが、取り組める児童とそうでない児童に2極化している。</p>				

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標による達成度		
基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 望ましい生活習慣を身に付け、学校のきまりを守って生活できるようにする。 ② 気持ちの良い挨拶ができるよう指導を徹底する。	評価指標 ① 基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭と学校の連携に関する肯定的意見の割合を85%以上とする。	評価指標による達成度 ① 89%の家庭が、基本的な生活習慣の確立に向けて連携できているという肯定的な意見をもっている。	(評定) B	○道で会ったときに、児童は挨拶をしてくれる。挨拶をしてくれると声をかけやすい。 ○狭い道で2列になって歩いていることがある。危ないので学校と家庭で指導が必要である。
		② 児童が進んで挨拶を実施する割合を児童・保護者ともに80%以上とする。	② 児童89%、保護者83%が挨拶ができているととらえている。しかし、声の大きさや自主性などについては十分と言えない。		
		活動計画 ① 児童朝会や昼の放送等で望ましい生活習慣の定着に向けて徹底を呼びかけるとともに、保護者への啓発を行う。	活動計画の実施状況 ① 保健委員会による清潔検査結果の放送や、学校保健委員会で児童の生活習慣に関するアンケート結果の報告をした。毎月発行している保健便りや学年便りで家庭への啓発を続けている。		
		② 生活委員会によるあいさつ運動を実施し、継続的に指導し、定着を図る。	② 継続的に取り組むことで挨拶することへの抵抗感がなくなり、できるようになっている。しかし、高学年が次第に受動的になっている実態があり、手立ての工夫が必要である。		

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	① 学校教育活動全体を通して人権尊重の考えを身に付け、温かく人間味あふれる豊かな感性をもった子どもを育成する。 ② 相手の立場に立って考える温かい心もち、互いの違いを認め合い、支え合って生活しようとする集団を育てる。	評価指標 ①-1 縦割り班活動や人権問題学習を通して、友だちと仲良く遊び、協力して生活できる児童の割合を92%以上とする。 ①-2 自分の長所(いいところ)を知っている児童の割合を75%以上とする。	評価指標による達成度 ①-1 友だちと仲良く遊んでいる児童は、98%以上、協力して生活している児童は95%以上であった。縦割り班活動を通して、異年齢の児童の交流も活性化している。 ①-2 自分の長所(いいところ)を知っている児童は78%以上であった。認め合う活動が個々の自己肯定感につながっている。	総合評価 (評定) A (所見) 今年度も、異学年集団の縦割り班活動で、動物園へ徒歩遠足に行くとともに、読み聞かせや朝の活動での遊びを継続的に行ってきた。他学年の児童同士のつながりが生まれ、優しい心情や高学年としての自覚などが育ってきている。教育活動の活性化に伴って学級内だけではなく、個々によさを感じ認め合う機会が増え、児童の自尊感情を高めることにつながった。	○学年をこえて交流するなど、児童が楽しそうに活動していることがわかった。
		② 友だちがつらい思いをしたり困っていたりするとき、一緒に考えたり行動したりできる児童の割合を90%以上とする。	② 92%以上の児童が、友だちがつらい思いをしたり困ってきたときに一緒に考え、行動できたこと答えている。優しく寄り添う事ができる児童が育ってきている。		
		活動計画 ①-1.2 教育活動全体でポジティブな行動支援のもとに、子ども一人一人を大切にする教育を推進し、優しく思いやりのある児童を育成する。	① 教職員全員が、児童を認め褒める言葉をかけるようにしている。担任外の児童にも全員で関わるようにし、認め合う集団作りに努めた。児童が互いに認め合う場や機会の設定を積極的に行った。		
	② 参観日やPTA活動などで、人権について考える機会を設ける。	② 参観日に人権問題講演会を開催したり、親子で人権標語を考えたりする機会をもつことができた。また、参観日の人権学習の公開や、体育館での学習発表会の開催などにより児童の様子を保護者に見ていただくことができた。			

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見	
個に応じた支援を行う特別支援教育の推進	① 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育に関する校内体制を整備し、全教職員の共通理解のもと、保護者・地域への啓発と教育活動の推進を図る。 ② 児童一人ひとりに応じた支援を行うために、教育内容や教育方法の工夫改善を図る。	評価指標 ①-1 児童一人ひとりに応じた支援に関する保護者の満足度を80%以上とする。 ①-2 児童理解のための情報交換会を学期に1回実施する。 ② 各々の子供の特性に応じ、頑張ったことを教師から褒められていると感じている児童が85%以上を目指す。	評価指標による達成度 ①-1 91%の保護者が児童一人ひとりに応じた教育が行われているととらえている。 ①-2 児童理解のための情報交換を毎学期はできなかったが、問題行動等や必要な支援については、その都度、共通理解している。また、ケース会議を状況の変化に応じて設けるなどして対応策の検討と共通理解を図った。 ② 先生は自分の頑張ったことを褒めてくれるととらえている児童の割合は83%である。ポジティブな行動支援が、十分ではないと判断できる。	総合評価 (評定) B (所見) 全職員が全児童に関わり、ポジティブな声かけを行っているが、自分に自信がもてず、様々に苦手意識を抱える児童もいる。連携体制のもと、実態に応じて個別に支援をしてきたことで、状況が改善され、学校生活の安定につながっている。しかし、個に応じた支援の現状がよくわかっていないと思われている保護者が一定数いることから、理解や啓発を図る必要があると考える。	○特別支援学級の授業を参観し、個別に支援してくれている様子が分かった。 ○学習活動に前向きに取り組んでいる児童の様子が見られた。
		活動計画 ①-1 特別支援教室での学習の様子を職員に公開し、共通理解を深める。 ①-2 児童理解を目的とする校内研修を全ての教員が行う。特に気になる児童や支援が必要な児童に対しては、全教職員が観察や指導を行う。 ②-1 教育活動全体において児童の頑張りを褒める機会を設ける。 ②-2 家庭との連絡を密にすることで、保護者との良好な関係の維持に努める。	活動計画の実施状況 ①-1 特別支援学級の学習を参観し、在籍児童の特性や個別の支援について理解した。 ①-2 校内研修で全ての教員が研究授業を行い、各学級の児童の把握、及び授業改善について研修を行うことができた。 ②-1 児童を褒める言葉かけを心がけ、全職員が全ての児童に関わるようにしている。 ②-2 家庭とは主に電話での連絡で、健康面・生徒指導面について、連携を行っている。即日対応やきめ細かな対応を心がけたことにより良好な関係を維持できている。		

来年度は難聴学級がなくなり、特別支援学級の児童を2名の担任で指導することから、個に応じた学習指導や、基礎基本の定着、望ましい生活習慣など、さらなるカリキュラムの見直しが必要である。通常学級においても、個々へ支援について十分な連携のもと学習指導を行っていく必要がある。また、個々への支援の状況が十分に伝わっていない現状を真摯に捉え、学習支援の方法や個別対応の状況について積極的に伝えていきたい。

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度の課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
心身ともに健康な児童を育てる特別活動の推進	① 異学年集団を中心とした活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。 ② 心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高めるための活動を推進する。	評価指標 ① 様々な異学年集団活動に対する児童の満足度を85%以上とする。	評価指標による達成度 ① 88%の児童が満足と答えた。縦割り班の活動を通って継続的に実施することができた。	○放課後に遊びに行ける日が限られてくる。ゲームをすることが多いのが現状なので、学校ですっかり運動してほしい。 ○食に関する指導を様々な学年で行っている。偏食がある児童には、バランスのとれた食事が大切であることをわかってもらいたい。	豊かな人間性や社会性を育む体験活動について検討し異学年集団活動に反映させる。 運動については、2極化が見られる現状に対し、効果的な方策を考えることが難しくかった。運動が苦手な児童への働きかけが課題である。 SNSとの関わりに課題があり、生活習慣や運動への取組との関連も強いとため、連携した取組を検討する必要がある。
		②-1 学校でも家庭でも、元氣いっぱい運動している児童の割合を85%以上とする。 ②-2 生活調査や食育の授業を行う。	② 86%の児童が、運動に取り組んでいると答えた。休み時間を教室で過ごす一定数の児童への働きかけを工夫する必要がある。 ②-2 生活調査を継続して実施し、生活習慣調査の結果とともに実態や課題への理解を児童や保護者に図った。食育については、ゲストティーチャーを招いて系統的に指導を行った。		
		活動計画 ① 異学年班での読み聞かせや遊びの活動を毎月実施し、徒歩遠足などの異学年での交流の充実を図る。	活動計画の実施状況 ① 読み聞かせや、遊びの活動など異学年のなかよし班で計画した行事等は全て実施し、年間通じて同じグループでの交流を図ることができた。		
		②-1 体育学習の充実と休み時間の外遊びの推奨を行い、運動が好きな児童を育てる。 ②-2 保健委員会の生活調査を毎週全校放送し、意識の継続を図る。	②-1 全員で外遊びをしたり活動内容を児童が計画したりする機会を設けるなどの工夫ができた。毎月1回の縦割り班での遊びも、運動の機会になっていた。 ②-2 保健委員会の生活調査により、清潔な身なりや朝ご飯を食べるなど、児童の意識が途切れないようにしている。学校保健委員会では、全校児童や保護者を対象に本校児童の生活習慣調査の結果を報告し、課題に即した講演会を実施する機会をもった。		

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度の課題と今後の改善方策			
		評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見				
開かれた学校づくりの推進	① 学校と家庭・地域との連携を密にし、子どもの教育を中心とした信頼関係と協力体制を築く。 ② P T A 役員会や学校評議員会・学校運営協議会等で、学校の教育活動やP T A主催の行事について地域や保護者の意見をしっかりと聞き入れ、学校運営に反映や活用する。	評価指標 ①-1 学校行事等をよりよく改善し、保護者や地域の方が学校教育活動に対し、より理解・協力しやすいように工夫して実施する。 ①-2 教育活動の様子が保護者に伝わるようにする。	評価指標による達成度 ①-1 今年度は、コロナ禍以前に実施していた行事や教育活動を実施したり、新たに防災教育に関する活動を実施したりすることができた。 ①-2 ホームページや方小だよりで、教育活動の様子をこまめに写真入りで伝えるようにしてきた。	総合評価 (評定) B (所見) 見直しをしながらの教育活動や行事の実施となったが、検討しながら改善して行うことができたと考える。結果的に開催時期に偏りが生じてしまったため、次年度には考慮した計画が必要となる。 P T A活動は、保護者の意見や要望を可能な限り反映させながら計画・実施できたと考える。再編した専門部会についても大きな問題はなく活動できた。 学校だより、学年だより、保健だより、ホームページを活用して学校の様子を伝えることができた。	○夏祭りが、開催できてよかった。 ○再開した様々な行事や学習活動の様子がよくわかった。	コロナ禍で休止していた地域と学校との連携について、どのように再開や連携の見直しをしていくか、全学年を通して検討する必要がある。年度当初にニーズを明確にし、早めのマッチングが重要になる。 P T A活動については、今年度の活動をもとにより参加しやすく、無理のない計画の工夫を図っていきたい。		
		活動計画 ①-1 学校への来校の機会や児童の学習活動の参観等を通して、保護者との連携を保つようにする。 ①-2 学校ホームページ、学校だより、学年通信、保健だより等を通じて学校での教育体制が具体的に保護者に伝わるようにする。	活動計画の実施状況 ①-1 教育活動の運営に関して、92%以上の保護者が肯定的にとらえておりP T A活動に関しても協力をいただくことができた。無理のない範囲で行事を計画・実施することができた。 ①-2 様々な学校での様子を写真を交えた学校だよりや学年通信、ホームページや校内掲示板で伝えた。				② 夏祭りを開催するとともに学校運営協議会において、地域とともに生きる児童を育成するための意見交換を行う。	② より協力しやすい形で方上祭りを開催することができた。 学校運営協議会を2回開催し、貴重なご意見をいただくことができた。
		② P T A活動の充実や学校評議員会・学校運営協議会の学期ごとの実施で、学校への建設的な意見を反映させる。	② 夏祭りの実施や補導活動などに保護者の意見を反映させて取り組むことができた。学校評議員会・運営協議会は2回実施し、学校への要望等を伺うことができた。					



敬愛信

毎日

敬う心 愛する心
信じる心